

No.206

Summer | August 2020



SAISEIKAI
KYOTO
HOSPITAL
kyoto.saiseikai.or.jp



特集
患者さんと
病院を
まもる



第3話

ここは天上の病魔大王の館。病魔大王は息子の病魔童子と酒を酌み交わしています。「昨日は、光秀が謀反を起こしたようですが、父上はまた何か細工をされたのですか？」と息子に聞かれると「あれはわしが細工する前に、病魔にむしばまれておった。レビー小体型認知症じゃよ。優秀な大名だったのがのう」と病魔大王は答えました。

55歳になった明智光秀は、本能寺の変の数年前から毎晩、巨大な信長に監視される悪夢に見舞われていました。昼間は幻覚までみてしまい、夕方には信長を怒らせて領地は召し上げられ、秀吉の指揮下で中国攻めを指示される始末。精神状態は極限にきてしまい、中国攻めに出發せず信長がわずかな手勢とともに宿泊していた本能寺に向かったのです。

明智光秀がレビー小体型認知症だったのではというのは最近の説ですが、本当のところはわかりません。レビー小体型認知症では記憶をつかまぬ海馬という脳の領域は初期には保たれ、かわりに幻視、レム睡眠障害、嗅覚障害、実行機能障害、視空間認知障害などの特徴的な症状が現れます。本人は気づきにくいため、周囲にこのような症状を訴えている方がいざしやれば、神経内科、総合診療内科などの受診をお勧めします。

診療部長・消化器内科 中島智樹
病魔大王のお話し全編はこちら▶



社会福祉法人 恩賜財団 済生会とは

済生会は、明治天皇が医療によって生活困窮者を救済しようと明治44(1911)年に設立しました。100年以上にわたる活動をふまえ、今、次の三つの目標を掲げ、日本最大の社会福祉法人として全職員約62,000人が40都道府県で医療・保健・福祉活動を展開しています。

- 生活困窮者を 済(すく)う
- 医療で地域の 生(いのち)を守る
- 医療と福祉、 会を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇...悩むすべてのいのちの虹になりたい。済生会はそう願って、いのちに寄り添い続けます。

総裁：秋篠宮皇嗣殿下 会長：有馬朗人 理事長：炭谷 茂

なでしこ紋章の由来



初代総裁・伏見宮貞愛(ふしみのみやさだなる)親王殿下は、明治45年、済生会の事業の精神を、野に咲く撫子(なでしこ)に託して次のように歌にお詠みになりました。

露にふす 末野の小草 いかにと あさ夕かかる わがころかな

野の果てで、露に打たれてしおれるナadeshikoのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかけてしかたがない

この歌にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花葉に露をあしらったものを、大正1年以來、済生会の紋章としています。

saiseikai.or.jp



SAISEIKAI KYOTO HOSPITAL

◎理念

思いやりの心・質の高い医療・明るい職場
～医療を通して地域に貢献～

◎基本方針

- 患者さん本位の良質で安全・適切な医療の提供
- 地域に応える連携・救急・災害医療・健診と地域包括ケアの推進
- 多職種によるチーム医療と協働の推進
- 人材育成・確保、勤務環境改善と働き方改革の推進
- 経営改善と新築移転事業の遂行



◎受診案内

診療受付時間 8:50～11:00(予約診療の方は17時まで)
診療開始時間 9:00から
休診日 土・日・祝日・年末年始
救急受付 24時間可能な限り対応
(ご連絡のうえ来院してください。TEL 075-955-0111)

受診の際は必ず手帳をお忘れなく

◎交通案内

- 駐車場あり(約160台)
- 阪急京都線「長岡天神駅」下車、西出口よりバスまたは徒歩15分
- JR東海道線「長岡京駅」下車、西出口よりバスまたはタクシー
- 阪急バス：
 - ・JR「長岡京駅」より阪急「長岡天神」経由
 - ⑦美竹台住宅前経由
 - ⑧奥海印寺(循環)済生会回り
 - ⑨奥海印寺(循環)梅ヶ丘回り
 - 各バスで「済生会病院」下車
 - ・その他、他系統バス「東台」「太鼓山」下車、徒歩5分



社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院

〒617-0814 京都府長岡京市今里南平尾8番地 電話 075-955-0111(代表) FAX 075-954-8255 https://kyoto.saiseikai.or.jp/



社会福祉法人 恩賜財団 済生会京都府病院

済生会京都府病院 92年目の沿革

開院前史から草創期

京都府では、明治天皇の済生勅語により明治44(1911)年に済生会が設立されてから、いち早く大正元(1912)年には京都府医師会と私立病院協会に施業救療事業を委託し、済生の実を目指しました。この事業委託は10年近く続きましたが、大正9年の戦後恐慌や不景気により生活困窮者が増えたため、大正10(1921)年2月から大正13(1924)年4月に済生会が4診療所(西陣・田中・本町・大内)を開設しました。

ところが、入院加療を必要とする患者さんが多く、病院建設が必要だと当時の京都府知事、京都在住の有志により大正14(1925)年4月に病院建設の議が起こり、寄付金の募集、用地の買収等が進められ、昭和3(1928)年8月に起工、昭和4(1929)年7月に京都市上京区紫野雲林院町(現在は北区)に済生会京都府病院(内科・外科、病床数50床)は開設しました。さらに昭和6(1931)年7月には京都府済生会支部が設置されました。

激動の時代から長岡京市への移転

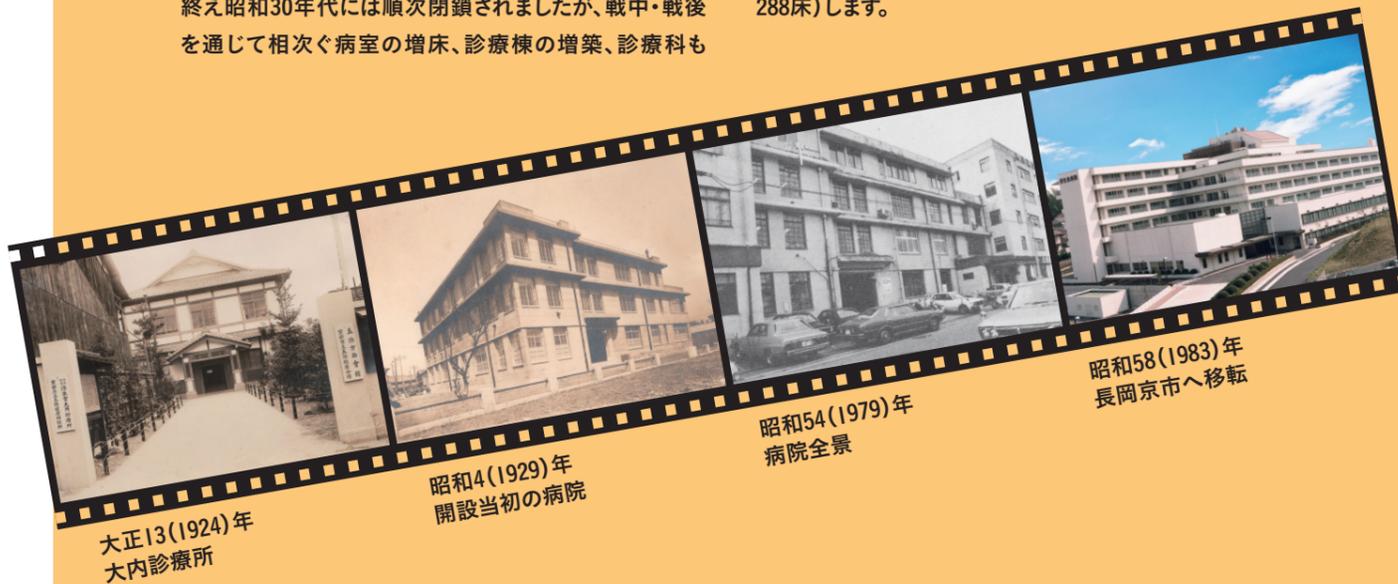
昭和15(1940)年から昭和18(1943)年には、戦時色の濃いなか、園部・宮津・伏見・東舞鶴に4診療所を開設、銃後診療にあたりました。終戦後、診療所はその役割を終え昭和30年代には順次閉鎖されましたが、戦中・戦後を通じて相次ぐ病室の増床、診療棟の増築、診療科も

増設し、昭和40(1965)年には第三期増築工事を終え、許可病床数329床の総合病院として地域医療の一翼を担いました。しかし、敷地が狭くこれ以上の改築拡張が不可能であること、医療環境の変化により近隣病院との競合などから、昭和52年頃から病院の移転が計画され、総合病院のなかった長岡京市の病院誘致の意向もあり、昭和58(1983)年7月、同市に新築移転(12診療科、病床数208床)、昭和60(1985)年には許可病床数350床となりました。

当院の発展期、そして新病院へ

平成5(1993)年7月に京都府下第1号の開放型病院(開放病床40床)として認められました。平成7(1995)年4月に訪問看護ステーションを開設、平成20(2008)年にはDPC対象病院に指定、地域医療支援病院、健診センター開設、院内保育室設置、病後児保育を開始しました。平成23(2011)年には京都府がん診療推進病院に指定され、平成31(2019)年4月に呼吸器内科、腎臓内科の常勤化を果たしました。令和2(2020)年現在、25診療科、病床数300床の乙訓地域唯一の急性期医療を担う公的医療機関として地域医療に尽くしています。

そして、令和4(2022)年阪急西山天王山駅近くに新たな地域医療の起点として新築移転(25診療科、病床数288床)します。



INFORMATION

新病院建築の地鎮祭を執り行いました

7月3日(金)に新病院建設用地内に地鎮祭を執り行いました。長岡京市長、向日市長、大山崎町長をはじめ関係者のみなさま、工事関係者、当院関係者が出席しました。工事中の安全、さらなる地域医療の充実、そして新型コロナウイルス感染症の鎮静を祈念して祝詞が奏上され、清祓、刈初の儀(草を刈る)、穿初の儀(地を掘る)、鎮物の儀、鎮物鎮定の儀(お供え物を埋納する)、玉串奉奠が粛々と行われ、滞りなく地鎮祭を終えました。この地鎮祭をもって新病院着工となりました。



新型コロナウイルス感染拡大防止のために

当院に対し、地域のみなさまから、マスク・ガウンや励ましの言葉など、さまざまなご支援とみなさまのお心遣いに心より感謝申し上げます。

当院では、職員の体調管理、マスク着用、手指の消毒の徹底をはじめ、院内の定期的清掃と消毒、環境整備など安心して受診いただけるよう努めています。来院されるみなさまには、マスク着用と手指の消毒、ソーシャルディスタンスをお願いし、さらには発熱など症状のある患者さんには申し出てください。面会方法など状況により変化しますので、ご来院の際は当院ホームページなどをご確認ください。



旬の食材と栄養

モロヘイヤ

エジプトやアラビア半島などで古くから食べられていた緑黄野菜。エジプト王の病がモロヘイヤスープで治ったという故事から「王様の野菜」とも呼ばれています。カルシウム・カロテン・鉄などが多く含まれます。カルシウムは、骨粗鬆症予防だけでなくイライラを抑える働きもありストレス緩和にも有効です。カロテンは、細胞の老化を遅らせるので老化防止に、豊富な鉄分は貧血に効果を発揮します。モロヘイヤは、おいがなくクセもないので食べやすい野菜ですが、刻むと粘りがでます。この粘り成分はマンナンなどの水溶性多糖類で、糖の吸収を遅らせ血糖値の上昇を抑える働きがあります。(モロヘイヤの種・茎には毒性があります。家庭菜園などで自家製を調理する場合は誤って食べないように注意してください。店頭に並ぶものは葉の部分のみです。)



※当初、モロヘイヤの粘り成分を「ムチン」と表記していましたが、現在の科学的知見では、ムチンは動物から分泌される粘性物質であるとされることから記事の内容を修正しました。



知
り
た
か
っ
た
体
の
こ
と
。

特集

患者さんと
病院を
まもる

左：岡本 教子 右：長谷川 久美子

新型コロナウイルスなどの感染症や医療事故などから
病院や患者さんをどうやってまもっているのか、ご存知ですか？
今回は看護部から感染管理と医療安全に日々向き合うスタッフに
病院の取り組みを教えてください！

感染からまもる 感染管理者 岡本 教子

手指衛生の徹底

院内感染を発生させない、広げないために1番大事な感染対策は手指衛生(手を洗うこと、消毒すること)です。みなさんは看護師の腰にぶらさがる消毒剤や外来診察室の机の消毒剤をみたことはありませんか？いつでも手をきれいにできるように、患者さんごとに消毒できるようにしています。地道なことですが、年々アルコール消毒剤の使用量は増えています。つまり、手指衛生の回数が増えているということです。

院内ラウンド

院内の感染制御の核になる感染対策チーム(ICT)は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されています。週1回のラウンドでは、感染対策が適切かどうか、設備や環境が衛生的に管理されているかを確認して随時指導しています。2018年からは抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動も開始し、患者さんへの抗菌薬の投与方法や期間、検査の実施状況等を確認し、現場へフィードバックしています。今年度は、看護部感染防止対策委員のラ

ウンドも実施し、より多くの職員が目で感染対策の確認・評価しています。

新病院移転に向けて

2022年の新しい病院に向けて、職員が感染対策を実施しやすいような環境を作ること、院内感染が起こらないような設備やその配置を考えて提案しています。

新型コロナウイルス感染症に対して

知らない間に新型コロナウイルス感染症が院内で蔓延することがないように、熱がある外来患者さんは、専用エリアで対応しています。また、面会や業者さんの立ち入りを制限し、来院時にはマスク着用、手指消毒、体温チェックをお願いしています。さらに、外来待ち合いの椅子や階段の手すりなどをすべて清掃・消毒し環境を整えています。

私たち感染制御部は「院内感染を起こさない」を維持する活動が主体のため、全般に地味な活動が



多いです。しかし、この地道な取り組みを継続しなければ、感染制御という病院の大きな目標は達成できません。地道なことを継続するのは簡単なようで難しいですが、職員の理解と協力が、私たちのモチベーションを日々支えてくれています。

岡本 教子 (おかもと のりこ)

感染管理者・感染管理認定看護師・看護課長
看護師免許取得後、他院の内科病棟勤務。2003年に済生会京都府病院に就職し手術室に配属。2009年感染管理認定看護師としての活動を開始。2012年から感染管理者として従事し現在に至る。

病院の安全 医療安全管理者 長谷川 久美子

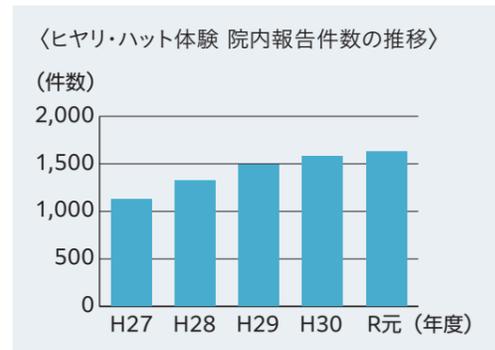
ヒヤッ!! としたり、ハッ!! としたり

みなさんは、車の運転中に視界の悪い交差点でヒヤッとしたことはありませんか?! 交差点には衝突事故を防止するためにミラーが設置されたり、一旦停止の表示がされたり安全のための工夫が行われています。

病院でも、ヒヤッとしたり、ハッとしたりした体験を集めて、その原因を究明し改善しています(ヒヤリ・ハット体験報告制度)。このような活動を推進するのが医療安全管理者の役割です。

報告をする制度

当院では2006年からヒヤリ・ハット体験報告制度に取り組んでいます。職員の安全への意識の高まりが、増加する報告件数に表れています。



現場に足を運ぶ

私の毎日の仕事は、報告内容の確認から始まります。報告者や同じ部署の職員に話を聞いたり、現場の状況を確認したりしています。現場に足を運んで報告書ではわからなかったことを詳しく聞くことで、業務改善のためのヒントやアイデアに気づいたりします。

医療安全を推進するチーム

院内には、医療安全のための様々なチームがあります。中心となる医療安全管理部の週1回カンファレンスでは報告内容の読み合わせや安全のための業務改善について話し合いをしています。メディカルセーフティマネージメント部会が多職種が参加する部会で、毎月院内職員向けの医療安全通信の発行や業務改善が実施されているか見回りをしています。看護部の安全対策委員会では看護師たちが熱



心に活動をしています。各部署での毎週のカンファレンス、毎月の委員会で報告しあい、急な状況に備えた対応訓練を計画・実施しています。

このように、医療安全管理者一人ではなく、様々なチーム活動によって院内の医療安全に取り組んでいます。

患者さん・ご家族も医療安全にご参加ください。

医療安全活動は患者さんやご家族の方の参加が重要です。特に、患者さんには間違いがないようにお名前を名乗っていただいています。また、ご自分の病気や飲んでのお薬のことに疑問があれば質問したり、間違っていないか一緒に確認したりして、安全活動へのご協力をお願いします。



患者誤認防止啓発ポスター

長谷川 久美子 (はせがわ くみこ)

医療安全管理部・医療安全管理者・看護課長
1994年当院に就職、同年看護師免許取得。循環器内科、心臓外科、内科、整形外科、産婦人科、地域包括ケア病棟での勤務を経験。2012年医療安全管理者養成講習会終了。2016年看護課長に就任。2019年医療事故・紛争対応人材育成講座受講。3月より現職に至る。

こんにちは

産婦人科 です。

出産から高齢まで、女性の一生に向き合って

産婦人科は女性特有の疾患に取り組んでいます。女性ホルモンによる様々な状態、月経に関する問題、不妊症や妊娠・出産に関する問題、子宮・卵巣・卵管での良性・悪性腫瘍、感染症、さらには更年期における諸症状、老年期における臓器脱の問題などです。これら疾患に対して、内科的・外科的(手術的)対応を行い、より良い生活を送っていただけるよう努めています。



周産期カンファレンス



産婦人科・小児科・病棟スタッフを含めた合同カンファレンスを定期的で開催して、チーム医療が必要な症例の検討をしています。



腹腔鏡手術

子宮・卵巣の腫瘍(子宮筋腫・卵巣などの良性疾患)に対して積極的に腹腔鏡手術を行い、入院期間の短縮・術後疼痛の軽減・美容的な面への対応をしています。

4D胎児超音波(エコー)



羊水下に胎児の動きを観察可能で、さまざまな疾患の発見にも役立っています。胎児の顔も観察ができ、喜んでいただいています。赤ちゃんはお腹のなかでもさまざまな表情をみせてくれます。生まれた赤ちゃんとは比べてみてください。